

中国人留学生を交えたグループ学習などに重点を置くことで、中国の多様性を実感として学べる授業を行う

2018年度春学期ティーチングアワード受賞

対象科目：地域研究：中国

創造・先進・基幹の理工3学部では、理系以外の科目も学ぶ。その一つ、選択科目の「地域研究：中国」は、中国に関する幅広い知識の習得を目的としている。担当する渋谷准教授は、グループ学習に重点を置くことで、単なるデータの知識に留まらない「生きた情報」を、実感を持って学べるように工夫している。また、授業を通じて中国の多様性を理解した学生たちが、そこから自身の研究や生き方のヒントを見つけてほしいと考えている。

身近な国「中国」の多様性を理解するために、授業内で「バーチャル中国旅行」を行う

「地域研究」には、中国以外にドイツやフランス、ロシア、アフリカ、イスラム圏など複数の科目がある。しかし、「他の国や地域と中国では、学生にとって少し事情が異なります」と渋谷准教授は指摘する。「早稲田の学内には中国人留学生が多く、そもそも他の国よりも身近な存在だからです。この科目自体、中国人留学生が毎年複数履修しています。そのため、まったく知らない国について学ぶというよりは、これから中国とどんな風に向き合うのか、そのヒントを見つけるという実学的な意味合いが強いのではないのでしょうか」。

授業では、広大な国土を持ち、地域ごとに特徴の異なる中国の多様性を理解してもらうために、「バーチャル中国旅行」をしていくという。初回はイントロダクションとして中国の基本情報を学ぶが、第2回以降は華東、西北。新疆ウイグル地区など各地域を取り上げて、データの概要を押さえると共に、データだけではわからない話題やニュースなどを掘り下げていく。また、回によっては「ネットショッピング」「環境汚染」といったテーマも併せて取り上げて解説する。



渋谷裕子

理工学術院准教授

アンケートの実施やクイズを盛り込んだ授業の工夫で、スムーズなグループ学習をサポート

「この科目がスタートしたのは4年ほど前ですが、『バーチャル中国旅行』というスタイルと、中国人留学生による発表を行うことは当初から変えていません。学生の反応を見ながら、毎年少しずつ内容は見直していますが、学生に積極的に話してもらう、留学生からいろいろな情報を聞く——といった姿勢を常に大切にしています」。

「地域研究：中国」の2018年度春学期の履修人数は約40名で、グループ学習するには適した人数だったと渋谷准教授。「留学生の数は毎年変わりますが、この期は全40名のうち8人ほどが中国からの留学生でした」。留学生の人数が多いと、どうしても留学生同士で固まりがちになり、一方の日本人学生も中国についてよく知らないため、中国人留学生と距離を置く人が多いという。渋谷准教授は、そうした状況を改善したいと、グループ学習を積極的に取り入れている。

「まず初回の授業では、日本人が中国人にどのようなイメージを抱いているかという現状把握から始めます。ただ、学生に直接聞いても率直な意見はなかなか出てきません。そこで、世論調査を活用して、結果を見ながらみんなで理由を考えます」。また、初回は学生の様子を観察して、全体の雰囲気やその後の進め方についても検討するという。そして、学生からアンケートを取り、回答に基づいてグループ分けを行い、2回目からはグループごとに集まって席につかせる。

グループ分けの際には、どのグループにも留学生を入れて、日本人だけあるいは中国人だけで固まることがないようにしている。グループに名前をつけさせたり、簡単な自己紹介を書かせたりなど、渋谷准教授のほうでも学生の円滑なコミュニケーションをサポートする。「学生の中には、人と仲良くなるのが苦手な学生もいるためです」。第2回以降は、中国の各地方の概要をクイズ形式でグループごとに答えていくが、「パソコンやスマホでも調べられますが、グループ内の留学生に聞けばわかることが多いので、必然的に話す機会が増えますね」。

留学生の「お国自慢」と全員参加のグループ発表で、多様な中国への理解をさらに深める

また授業では、留学生による自分の故郷のスライド発表も行う。各地方の概要は授業ですでに説明しているため、発表ではその人ならではの「生」の情報や自分の意見を話してもらうという。「スライドはPowerPointで作りますが、発表の順番が後になればなるほど、前の人よりよいものを作ろうとするので、完成度がどんどん上がっていくのが面白いですね。知らない情報が多く、学生たちも興味を持って聞いていました。日本人学生にとっては、留学生の日本語スキルが高いことにも大いに刺激を受けたようです」。発表後は全員が感想を書いて、発表者にフィードバックもしている。

さらに、後半10回以降の授業では、日本人学生も参加して全員でグループ発表にも取り組ませた。当初のグループ分けとは別に、個々の興味に応じた数名のグループを新たに作り、「アニメ」「キャッシュレス」「中国旅行」「香港文化」などテーマを決めて、グループで話し合い、PowerPointのスライドを作ったという。「ただ、グループには相性もあり、メンバー同士で話が盛り上がるグループもあれば、分業制で自分の担当するPowerPointのページだけを淡々と作るグループもありました。それでも、学生主導で進めることに意味があると思うので、基本的には細かい指示は出さず、ときどき席を回って様子を見守るようにしました」。

グループ発表のスライドは、中国人留学生が発表したスライドと合わせて、最後に製本してクラス全員に配ったそうだ。「他にはない非常に貴重な資料なので、一度見るだけではもったいないと考えるからです」。日中国間に限らず、中国本土と台湾、香港との間、あるいは中国国内でも新疆ウイグル自治区など、中国関連では政治的な問題も多い。しかし、この授業では教員の意見を押し付けることはなく、むしろさまざまな意見があることを受け止めてほしいと渋谷准教授。「また、理系の学生という点では、中国の最先端の部分に目を向けるだけではなく、たとえばまだまだ貧しく困っている地域の人を技術で助けたいといった志を持ってほしいと授業を通じて、これからも伝えて行けたらと考えています」。